

## 2022 年、日本の EPA 交渉の予測の採点と 2023 年の予想

2021 年末に次のコラムを掲載した。予測の採点をしてみたい。

### 2022 年、日本の EPA 交渉はどうか？

思えば、2021 年の年明けには世界のだれもが、新型コロナは中国の一部での病気としか思っていなかった。

それから 2 年。それでも EPA は着実の動き、日英 EPA の締結発効、RCEP の署名と発効の確定と進んだ。

2022 年はどうなるのか？予測してみる。

まず CPTPP である。いまだ批准していないチリ、マレーシア、ブルネイの動向である。

チリについては、2019 年中に議会の承認がされる見込みであったが、土壇場で無期延期状態になっている。

2022 年 3 月の大統領選挙で左派の候補が当選した場合、公約に新たな FTA はしないとしていることからこのまま加盟しないという予測もされている。

もっともペルーが、左派の大統領の就任直前に批准したようにかえって、左派の当選の場合に直前に批准もありかと思うがどうであろうか？

(結果)

結局、チリの大統領就任直前の批准はなかったが、10 月にチリの議会を通過。投資家と国との間の紛争解決 (ISDS) メカニズムについてのチリが推進するサイドレターへの他の参加国の承認が得られた後に批准することであったが 2022 年 12 月 23 日に批准され、2023 年 2 月 21 日に発効する。

マレーシアは、2021 年中に RCEP を批准しそうで併せて CPTPP も批准しそうである。その場合ブルイネも追随しそうである。

(結果)

マレーシアは、2021 年中に CPTPP を批准したが、ブルイネは動きがない。国内的に問題の要素はなさそうであるが、何故か動かない。

新規加盟についてはイギリスの加盟交渉は 2022 年中にまとまりそうであるが、申請の扱いがまだ処理されていない中国と台湾はどうなるのか？加盟申請が何回も先延ばしになっているタイと韓国はどうするか？いずれにせよ、日本の CPTPP 議長国は 2021 年末で終わり、2022 年はシンガポールとなる。新規加盟の扱いについて日本が主導権をとる期間は終了する。市場開放水準の切り下げを認めず、加入後の協定順守を求めるのは当然であるが、

交渉開始時の条件とはできないであろう。

そうなると 2022 年の第 1 回 CPTPP 委員会で交渉開始が承認となるのがもっともありそうである。その場合、加入 WP は、形式的には国別になるとしても実質的に合同で開催し、個別の条件交渉にならないようにできれば日本としては好ましいだろう。

(結果)

イギリスの加盟交渉は 2022 年中にまとまらなかった。個別品目の関税交渉の難航のようである。

新規加盟は、更にエクアドル、コスタリカ、ウルグアイが申請したが、中国、台湾を含めその扱いについては進展がない。また申請直前までの動きがあった韓国は、政権交代後動きが止まっている。またタイも動きがない。

交渉中の EPA は、どうなるか？

日中韓 FTA は、2021 年 11 月に交渉会合を開催して以来、動きがないが「RCEP 交渉の進展の現状を確認し、いかなる付加価値を付与することができるかを議論」と日本の外務省は説明しており水面下で交渉が進展し RCEP 発効後妥結発表という可能性もある。

同じく 2021 年 10 月から進展のない日トルコ EPA は、動向が不明である。

公式に交渉中断となっている GCC との FTA であるが、最近 GCC が EU、イギリスとの交渉を再開してる。

日本も交渉再開してしかるべきかと思うが情報は乏しい。

こうみると 2022 年に確実に行われるの、CPTPP 拡大交渉のうちイギリスとの交渉のみであり、ほぼ確実なものは、CPTPP 拡大交渉のうち中国、台湾との交渉、かなり可能性があるのは CPTPP 拡大交渉のうち韓国、タイとの交渉であり、交渉中のもので何らかの進展の可能性のあるのは日中韓 FTA となりそうである。

(結果)

結果として 2022 年中の妥結は何もなく予測はすべてはずれということになる。一方で、日本・イスラエル、日本・バングラデッシュが共同研究開始になるのは予想外の進展であった。

さて 2022 年暮れにこれを採点して何点になるか？

(結果)

自己採点は、60 点。ぎりぎり可。甘いかな。

2023 年は、新しくするまでもなく、2022 年の継続かな。

新規に加えるのは、香港の RCEP 加入あたりです。

